

デザインによる製品化支援 ーデザイン開発支援事業ー

佐藤 茂*

1. はじめに

21世紀は自然環境や文化環境の回復が重要な役割として注目され、新しいものを創造するだけでなく、既存のものを維持・保持・再生し、そこに新たな使い方や価値を発見することも重要なデザインの営みとして位置づけられている。

また、技術革新による差別化が困難な汎用消費財においてはブランド化を念頭に置いた戦略的デザインの創造・活用により、高付加価値化、差別化を図って行くことも重要である。

このような社会情勢を背景とし、商品企画やデザインの技術移転を行った。

- 1) 小型仏壇の製品開発支援
- 2) 笠間焼壺入り酢蛸のデザイン開発
- 3) 小型竹炭焼成炉のデザイン開発
- 4) ヤーコンすりおろしゼリーのデザイン支援
- 5) 甜茶のパッケージデザイン支援

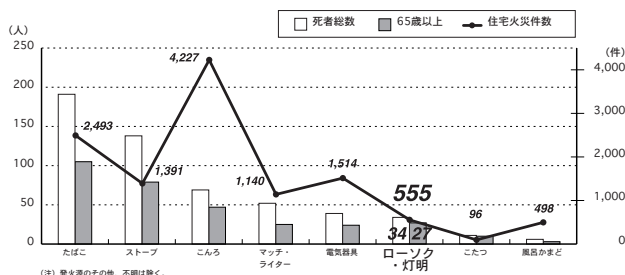
本報告では平成13～14年度に外部専門家により、企画～デザイン～試作・評価までトータル支援を行った3例について記載する。

2. 小型仏壇の製品開発支援

2.1 開発概要

オンリーワン技術である銅・真鍮を主体とした創作技術を「強み」としたメンテナンスフリーの仏壇を開発することを目標とした。平成12年消防庁「住宅火災の実態」によると、発生源が「ローソク・灯明」の住宅火災は555件で、うち死者総数34名、65歳以上が27名となり、仏壇における火災の増加が問題になっている（表1）。

表1 発火源別死者数
(平成12年、消防庁「住宅火災の実態」より)



2.2 開発コンセプト

競合商品や類似商品のポジショニング分析により、事業コンセプトの開発余地があり、独自アンケート調査により「サイズは卓上タイプ」「形態は家具調や現代型（伝統型以外）」が望まれていることが分かった。

市場調査より想定ユーザー（開発ターゲット）を設定した製品化を行った（図2）。

- 1) 宗教観：普段、宗教を意識しないで生活している

- 2) 住居：マンションなど狭いスペースに仏壇を祀りたい

- 3) スタイル：洋風の暮らしで、洋室やリビングに仏壇を祀りたい



図1 小型仏壇

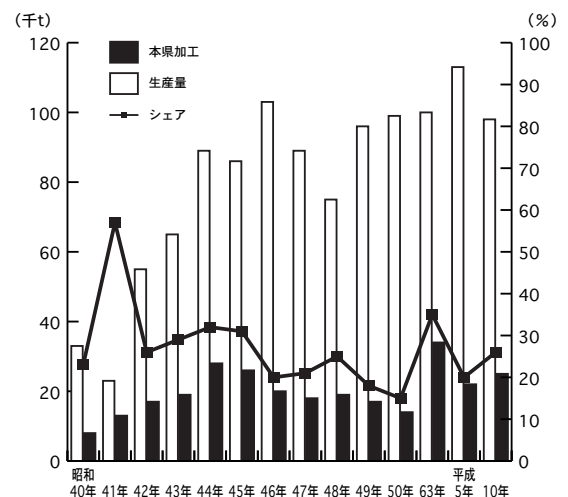
3. 笠間焼壺入り酢蛸のデザイン開発

3.1 開発概要

本県における煮たこ加工生産は全国の25%程度のシェアを持ち、代表的な水産加工品となっている（表2）。特に、那珂湊は昭和30年代末より代表的な水産加工として栄えたが、外国産品に押され市場が粗悪化し、産地イメージのダウンにつながった¹⁾。

表2 本県煮たこ生産量の推移

茨城県水産加工試験場「茨水加たより」平成13年3月第67・68号より作成



3.2 開発コンセプト

現代の消費者は「ゴミを出さない」「原材料が健康に良い」といった視点が商品の選択肢として挙げられ、付加価値の高い商品への出費は惜しまない「選択消費」「こだわり消費」の増加が見られている。

那珂湊漁港という産地、品質を重視した商品、笠間焼という環境を配慮したパッケージにより地域ブランド開発した（図2）。



図2 笠間焼壺入り酢蛸

4. 小型竹炭焼成炉のデザイン開発

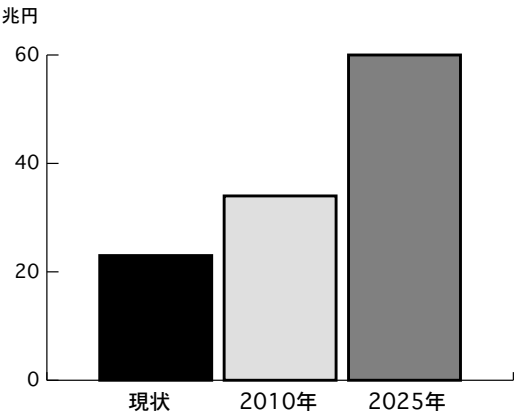
4.1開発概要

環境ビジネス市場は現状で23兆円、2010年には34兆円（日本機会工業連合会）、2025年には60兆円（通産省）と言われ（表3）、身近な問題として広がりを見せ、持続可能な資源循環（エコマテリアル）の開発が急務となっている²⁾。

炭化は廃棄物の有効利用にも考えられ、特に竹炭はその素材特性が見直され、人体や環境への効果・効用の研究が報告されるなど市場性が高まっている。

表3 環境ビジネス市場

出所 日本機会工業連合会／日本産業機械工業会



4.2開発コンセプト

製品の特徴からレトロをイメージし、グリーンコンシューマーが家庭で使用する生活シーンを想定し、消費者自ら容易に竹炭を製作できる小型竹炭焼成炉のスタイルを検討した。

1)A-type（図3）

「だるまストーブ」をモチーフとし、楽しそうな雰囲気とディテールにアナログ的親しみが感じられるイメージとした。

2)B-type（図4）

ポットスチルをモチーフとし、材特性と形態を生かしながら異国的情緒を匂わせるイメージとした。

5. おわりに

21世紀のデザインは個々の人工物に留まらず、人工物や自然物の集合を含む環境・社会システムを生成し、生活の質を向上させて行く役割を果たすべきと言われる。

本開発の竹炭焼成、笠間焼パッケージは自然環境の回復を期待させるものであり、仏壇の小型化は文化・社会環境に貢献できるもので、共に生活者を想定し且つ地域の優位性を活用したものとなった。

なお、本開発に当たり、神戸デザインスタジオ・神戸憲治氏、株式会社武者デザインプロジェクト・武者廣平氏、有限会社プラネッツ・倉田稔之氏にデザイン指導を頂き、この誌を借りて感謝いたします。



図3 小型竹炭焼成炉（A-type）



図4 小型竹炭焼成炉（B-type）

参考文献

- 1)茨城県水産加工試験場「炭水加たより」平成13年3月第67・68号
- 2)「エコビジネスとビジネスチャンス」雇用・能力開発機構、雇用創出セミナー資料